航空ファン
KOKU-FAN

ワイドカラー

WIDE COLOUR

96式艦戦



☆特集☆
カラー特集 ;ブルーエルゼルスのA-4
米空軍のAMST試作機 ① YC-15
日本海軍の極秘資料 ;戦闘機隊長必携

'76 APRIL **4**

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30

岩国基地の翼

Wings At Iwakuni NS





上下とも昨年11月，A-6A使用の第533全天候攻撃中隊（VMA(AW)-533）にかわり，新しく岩国基地に配属になった第224全天候攻撃中隊（VMA(AW)-224）所属のA-6Eイントルーダー。

A-6E Intruder of VMA(AW)-224 assigned to Iwakuni NS, Nov. 1975


CF
9972
MARINES
VMA 211


WAKE
14
JET
DANGER
VMA 211

Blue Angels



(Photo by Erik Simonsen)



(Photo by R. E. Kling)



(Photo by R. E. Kling)

前ページはデモンストレーションに飛行向うブルーエンゼルスのA-4F。ブルーエンゼルスは今年編成30周年を迎えるが，その間の使用機はF6Fにはじまり，F8F，F9F，F11F，F-4Jとと変わり1973年12月から現在のA-4Fを使用している。

Blue Angels' A-4F.
The demonstration craft has become this model since Dec. 1973.



(Photo by R. E. Kling)



(Photo by R. E. Kling)

◀広報担当官がデモ飛行予定地の調査や，現地の下見などに使用している7番機のTA-4J。
▼チームの支援機材や整備班の輸送用に使用しているKC-130H。ニックネームは"ファット・アルバート"(Fat Albert)で，運航は海兵隊員が担当している。

◀ TA-4J for Blue Angels' public affairs officer

▼ KC-130H "Fat Albert"

ロッキード U-2

アメリカでは珍らしく極秘のうちに開発されたU-2。記号は多用途の“U”をつけているが，戦略偵察機として，かつてソ連や中国本土の軍時施設の撮影に使われたことはご承知のところ。単座U-2AとU-2Bのほかに観測員席を追加した複座のU-2Dの三つの型があり，単座は原型2機を含めて約50機，複座は5機が造られている。戦略偵察の任務は宇宙衛星にゆずった最近では，一部がNASAの配下として気象観測や高々度研究機として使われている。右は機首レドームを大きく改造した単座型の1機。下は複座のU-2D。

U-2. (Right) Single-seat model with remodeled radome. (Bottom) U-2D.







(Photo by Frank B. Mormillo)



(Photo by Richard P. Lutz, Jr.)



U-2D in use for tests at Edwards Test Center.

エドワーズ空軍基地の空軍飛行テストセンターで各種のテストに使われている複座のU-2D。単座のU-2Bを改造した機体である。U-2は翼下にたれ下っている補助車輪を使って離陸するが，離陸後はこれを投下，着陸はたれ下った翼端をソリ代りに利用する。



(Photo by Richard P. Lutz, Jr.)



U 2D. Before being assigned to Edwards



▲U-2B改造のU-2D。前ページと同一の機体で，飛行テストセンターの塗装にする前のもの。

◀エドワーズ空軍基地で，NASAの各種用途に使われている複座のU-2。NASA用の機体には，晴天乱流，ジェット・ストリーム，オゾン観測，宇宙塵用の機器を積んでいる。気象観測のほかに，エドワーズ基地のU-2は宇宙衛星カプセルの回収，追跡などにも飛んでいる。

Macci MB.326L, Dubayy AF

ドバイ空軍のマッキ　MB.326L

マッキMB.326Lは，1973年から開発が進められたMB.326Kの複座練習機で，MB.326シリーズの最新型である。ドバイ空軍ではこのMB.326Lを1機だけ発注していた。

This is the newest model of the MB326 series.



初飛行した YC-15の2号機



マクダネルダグラス YC-15 STOL 輸送機の 2 号機が昨年12月 5 日に初飛行に成功した。機体塗装は 1 号機では上面白，下面グレイのスッキリしたものだったが，2 号機は写真の様に迷彩塗装されている。

Prototype No. 2 of McDonnell Douglas YC-15 STOL transport, camouflaged, made the first flight on December 5, 1975.



Prototype No.2 of YC-15 maiden flight.



世界のジェット・エアライナー⑩

ILYUSHIN Iℓ-62



ソ連の持つ唯一の国際線用長距離ターボファン・ジェット・エアライナー。写真はいずれも羽田空港に乗り入れているIℓ-62。写真下は初期型だが，写真上と右は乗客収容数を最大198人まで増やし，エンジンの推力も向上した新型のIℓ-62M。最近ではアエロフロートのマーキングも，ごらんのように一部変っている。

Soviets pride turbo Jet airliner. (Up) Il-62. (Top & right) Thrust-strengthened Il-62M. Note the marking of AEROFLOT partially changed.



初飛行に成功した YC-15試作２号機



アメリカ空軍のＡＭＳＴ（次期中型ＳＴＯＬ輸送機）としてデビューした，マクダネル・ダグラスYC-15の試作２号機が，昨年12月５日，空軍のテスト・プログラムに基いて２時間10分の初飛行に成功した。迷彩塗装した２号機は，マクダネル・ダグラス社のテストパイロット，ケネス　K．ルイスが操縦してロングビーチを離陸，アリゾナのユマで１号機と合流した。１号，２号の両機は12月19日エドワーズ基地にある空軍テスト・センターに移された。



SECOND PROTOTYPE YC-15 SUCCESS IN FLIGHT



今後この２機は，空軍のＡＭＳＴプログラムの試験機として，ＳＴＯＬ技術の評価，および将来の空軍用中距離輸送機の必要条件の検討のために，各種の資料を提供するものと期待されている。このプログラムは，ＮＡＳＡ，マクダネル・ダグラス社の技師等総勢 130名が参加して，設計，飛行，メンテナンス等あらゆる分野にわたって評価，試験が行われることになっている。



The second McDonnell Douglas YC-15 prototype aircraft made its debut in the USAF AMST (Advanced Medium STOL Transport) flight test program on December 5, 1975 when it flew from Long Beach Municipal Airport to Yuma, Arizona, where it joined the first YC-15. The two aircraft thenflew to Edwards Test Center, Decemder 19. The two aircraft were developed as part of the AMST program to evaluate advanced STOL technology and to investigate its application to future AF medium transport requirement.

韓国オーサン基地のブロンコとファントム



(Photo: Inter-Air Press)

上はオーサン（烏山）基地のシェルターの中で翼を休める第51戦術混成連隊（51st COMPW）第19戦術航空支援飛行隊（19th TASS）所属のOV-10Aブロンコ。下は飛行前の点検をするOV-10A。

OV-10A Bronco at a shelter.
(Bottom) Pre-flight check.



(Photo: Inter-Air Press)

BRONCO & PHANTOM OF OSAN AB, KOREA



(Photo: Inter-Air Press)

上は訓練飛行に向う第19戦術航空支援飛行隊所属のOV-10A。

(Top) OV-10A, busy around the clock.

下はエプロンでエンジン始動する第19戦術航空支援飛行隊のOV—10A。

(Bottom) OV-10A, now time to start.



(Photo: Inter-Air Press)

(Photo: Inter-Air Press)



上と下はエプロンで翼を休める第51戦術混成連隊（51st COMPW）第36戦術戦闘飛行隊（35th TFS）所属のF-4EファントムII。

(Top & bottom) F-4 Phantom II, potentials of the 36th TFS, the 51st COMPW.

At Osan AB, about 60km south of Seoul is now stationed the 51st COMPW. The USAF wing is composed of the 36th TFS and the 19th TASS, to which the F-4E Phantom II and the OV-10A Bronco are assigned respectively. The Bronco is often used in cooperation with local civil quarters as an agricultural chemicals disperser or rescue transport.

(Photo: Inter-Air Press)



ソウルの約60kmほど南方にあるオーサン（烏山）空軍基地は，かつてK-55の記号で呼ばれた基地で，韓国ではただひとつの米空軍の手でつくられた空軍基地でもある。現在同基地に駐留している米空軍部隊は第51戦術混成連隊（51st COMPW）で，1974年9月に編成されたもので，第36戦術戦闘飛行隊（36th TFS），第19戦術航空支援飛行隊（19th TASS）の両航空部隊がある。装備機は第36戦術戦闘飛行隊がF-4EファントムII，第19戦術航空支援飛行隊はOV-10A ブロンコである。機首に20mmバルカン砲を装備したF-4Eはご承知のように攻撃支援もできるファントムの多用途戦術戦闘機型。一方OV-10A ブロンコは，対ゲリラ作戦用に開発されたCOIN機。一般の偵察，観測，武装しての強行偵察，前線空中指揮など各種用途に使われているが，平和時には，急患や医薬品の輸送や農薬散布などにも出動して民間に協力している。

(Photo: Inter-Air Press)



上は基地上空をフライパスする第36戦術戦闘飛行隊所属のF-4E。下は着陸する同飛行隊のF-4E。

(Top) F-4E fly-pass over the base.
(Bottom) F-4E in landing.



(Photo: Inter-Air Press)

岩国基地の翼たち



現在岩国基地にある米海兵第1航空師団（1st MAW）には海兵第1師団司令部中隊（MWHS-1）をはじめ、第224全天候攻撃中隊（VMA(AW)-224）、第2戦術電子戦中隊"A"分遣隊（VMAQ-2Det"A"）、第12司令部整備中隊（H&MS-12）、第211攻撃中隊（VMA-211）、第513攻撃中隊（VMA-513）の所属する海兵第12飛行大隊（MAG-12）、第115戦闘攻撃中隊（VMFA-115）、第232戦闘攻撃中隊（VMFA-232）、第3戦術写真偵察1中隊第1分遣隊（VMFP-3Det（沖縄））、第15司令部整備中隊（H&MS-15）の所属する海兵第15飛行大隊（MAG15）の航空機部隊と、海兵第17師団支援大隊（MWSG-17）、海兵第18航空管制大隊（MACG-18）それに沖縄にある海兵第36飛行大隊（MAG-36）が配属されている。そのほか岩国基地隊（MCAS Iwakuni）がある。

Marine Corps Air Station, IWAKUNI



このページは昨年11月30日，チェリー・ポイントから10年ぶりに配属になった海兵第224全天候攻撃中隊（VMA(AW)-224"Bengals"）所属のA-6E．VMA(AW)-224の配属により，それまで岩国にいたA-6Aを使用する海兵第533全天候攻撃中隊（VMA(AW)-224）はチェリー・ポイントに転属となった。



A-6E of VMA (AW)-224







EA-6A of VMAQ-2 Det"A"



このページは格納庫の中で整備中の海兵第2戦術電子戦中隊"A"分遣隊（VMAQ-2Det"A"）所属のEA-6A。







A-4E of VMA-211

このページ上は訓練飛行に向う海兵第211攻撃中隊（VMA-211）所属のA-4E。中はエプロンで翼を休める同中隊のA-4E。下は飛行準備中の海兵第115戦闘攻撃中隊（VMFA-115）所属のF-4J。



F-4J of VMFA-115





上は離陸する海兵第211攻撃中隊（VMA-211）のA-4E。中は海兵第232戦闘攻撃中隊（VMFA-232）所属のF-4J。なおこの中隊は今年創設50周年をむかえる。

A-4E of VMA-211

F-4J of VMFA-232







F-4N of VMFA-531

エルトロにて

by FRANK B. MORMILLO

カリフォルニア州にあるエルトロ基地には米海兵隊第3航空師団司令部があり，ここにはF-4Nを使用する第314戦闘攻撃中隊（VMFA-314），VMFA-323，VMFA-513の3個飛行隊，A-4Eを使用する第214攻撃中隊，A-6Aを使用する第242全天候攻撃中隊が所属しており，そのほか第13司令部整備中隊（H&MS-13）のTA-4F，訓練用のT-28Bなども配属されている。

A-4E of VMA-214



Marine Corps Air Station, El Toro



左ページ上は編隊離陸する第531戦闘攻撃中隊（VMFA-531）所属のF-4N。下は第214攻撃中隊（VMA-214）所属のA-4E。このページ上は着陸する第323戦闘攻撃中隊（VMFA-323）所属のF-4N。中は第13司令部整備中隊（H&MS-13）所属のTA-4F。下は訓練用に使用されているT-28B。

F-4N of VMFA-323



TA-4F of H&MS-13







RF-4B of VMCJ-1



RF-4B of VMFP-3





A-6A of VMA (AW) -242

上は第1混成偵察飛行隊（VMCJ-1）のRF-4B。中は第3戦術写真偵察中隊（VMFP-3）のRF-4B。下は胴体下に爆弾を装備して訓練に向う第242全天候攻撃中隊（VMA（AW）-242）所属のA-6A。

F-4N of VMFA-314



上はエプロンで整備中の第314戦闘攻撃中隊（VMFA-314）所属のF-4N。下は昨年11月まで当国基地に配属されていた第533全天候攻撃中隊（CVMA(AW)-533）所属のA-6A。

A-6A of VMA (AW) -533



NATO
空輸大演習



「アドバント・エクスプレス」（キリスト降臨節特急）と呼ばれたＮＡＴＯの空輸大演習が、昨年11月26日から12月17日まで、ベルギー、西独、イタリア、アメリカ、およびイギリスのＮＡＴＯ５ヵ国から空陸約 7,000人が参加して行なわれた。演習地はイギリスのサリスベリー平原で、ＮＡＴＯヨーロッパ連合軍（ＡＣＥ）の空輸機動隊（1960年に創設）は連日大量の兵員、物資をイギリスに空輸して、国際協力部隊としての真価を発揮した。参加機は飛行機 100 機、ヘリコプタ35機であった。このページ上は補給物資を投下するイギリス空軍のＣ-130Ｋ。下はイギリス第２陸軍航空隊のウエストランド・スカウト。



EXERCISE ADVENT EXPRESS



上はドロップゾーンから1トンの貨物をつり上げているウエストランド／エアロスパシャル　ピューマヘリコプタ。下はサリスベリー平原に着陸するガゼルヘリコプタ。



ソ連空軍の中型爆撃機 Tu-22 ブラインダー。ブラインダーには初期の偵察爆撃型の NATO で A と呼ぶ型と，胴体に半埋込み式にキッチン空対地ミサイルを装備できる B 型，洋上偵察用の C 型，複座練習用の D 型が確認されているが，写真の機体は B 型と思われる。B 型では機首レドームが A 型よりやや大きくなっており，一部引込式の空中受油プローブをつけている。このページ中の写真はブラインダーと乗員たち。



Tu-22 "Blinder" (TASS)



(TASS)





(TASS)

PHOTO NEWS



Tu 144 placed into regular services, Moscow Alma Ata, 25 Dec. 1975. (TASS)

(APN)

ソ連の開発した超音速旅客機Tu-144が昨年12月25日，モスクワーアルマアタ間に定期就航した。Tu-144は約50万馬力，時速2100～2300kmで飛行可能で離着陸も従来の滑走路で充分まにあうし，操縦も従来のものに比較して特別むずかしい所はないという。このページ上はアルマアタを離陸するTu-144。左ページ下は第1回目の飛行を終えてアルマアタでインタビューをうけるパイロットたち。



Alfa Jet, prototype No. 4.



編隊飛行をするアルファジェットの原型4機。左から02，04，03，01。01と03はフランスのダッソー・ブレゲーで，02と04はドイツのドルニエで完成した機体である。

米国エンストローム・ヘリコプタ。同機は1959年にその原型のF-28が開発されて以来，現在までにF-28A, C, F-280「シャーク」同Cなど計350機が生産され，米国，ヨーロッパ等の各地で，薬剤散布や送電線パトロールなどの事業用のほか，訓練および連絡用，レジャー用などに活用されている小型3人乗りの多用途機。写真はF-28AとF-280(下)。



F-28A and F-280 utility helicopters.



コンコルド超音速旅客機が1月21日から定期運航を開始した。バーレーンへの歴史的な最初の超音速旅客サービスを終えた英国航空のコンコルドは同日ロンドンに帰着した。また、ダカール経由でリオデジャネイロへ飛行したエールフランスのコンコルド一番機も同日パリに帰還した。



Concorde starts services on Jan. 21.

日本の撃墜王坂井三郎原作の「大空のサムライ」が映画化されることになり、東宝映画で撮影が進められている。写真は特撮シーンに使われる零戦の模型。この他に実物大の模型も10機作られている。下左は撮影用零戦の上で当時の話をする坂井三郎と坂井役の藤岡弘の両氏。



Saburo Sakai's "SAMURAI" now filmed by Toho Movie.





スナップだより



厚木基地を離陸する米海軍VR-30所属のC-9Bスカイトレーン II（西宮市　浜野博司）。

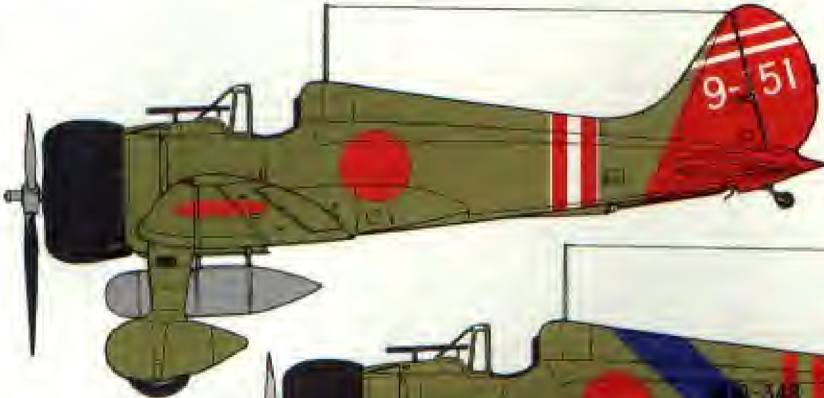


胴体下面にRMK-19／A47U-3リールとターゲットを装備して飛行するF-4EJ。（市川市　浮乗英之）。

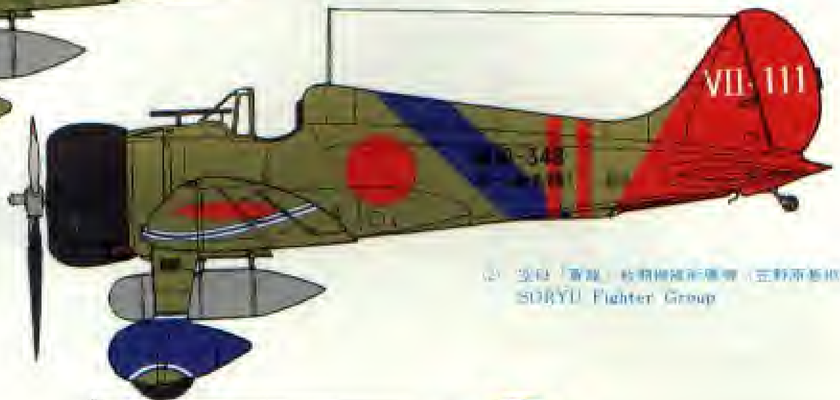
12月下旬横田基地に飛来した第8戦術戦闘航空団第80戦術戦闘中隊所属のF-4D。胴体上部にジャミング用アンテナが取付けられているのに注意（相模原市　橋本俊哉）。



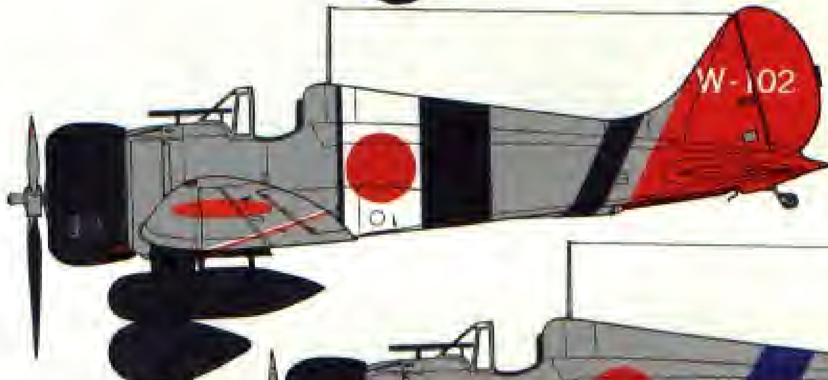
三菱96式4号艦上戦闘機（A6M4）



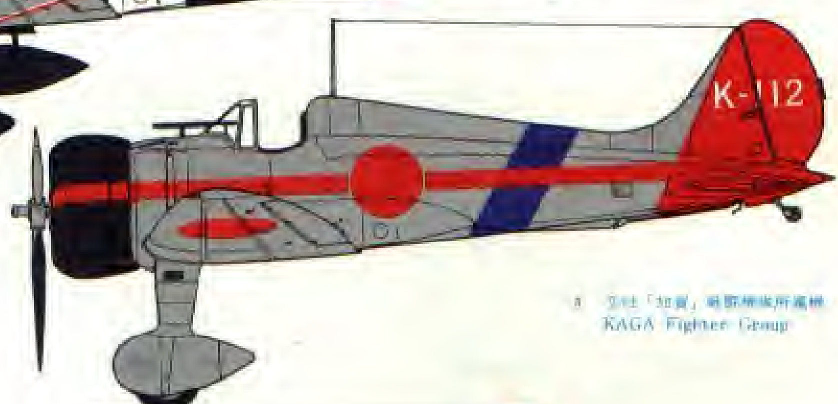
1 第14航空隊分隊長・周防
元成大尉機（廣州基地）
Flown by Lt. M. Suoh,
14th F. G., F. S.



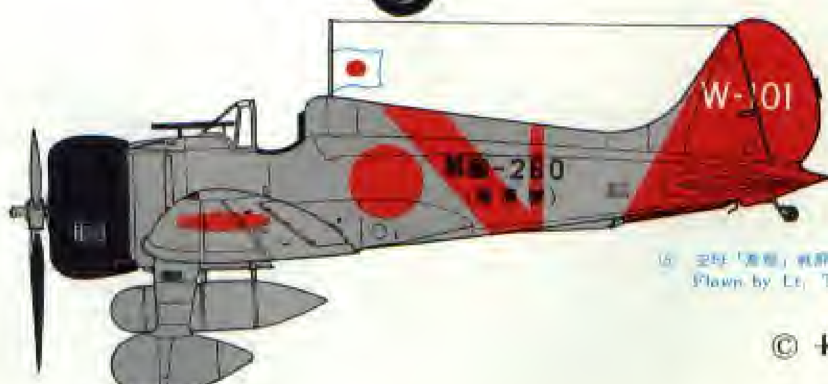
(2) 空母「蒼龍」戦闘機隊所属機（笠野原基地）
SORYU Fighter Group



3 空母「蒼龍」戦闘機隊・
羽切松雄一空曹機
Flown by NAP 1/C M.
Hagiri, SORYU F. G.



4 空母「加賀」戦闘機隊所属機
KAGA Fighter Group



(5) 空母「蒼龍」戦闘機隊分隊長・横山保大尉機
Flown by Lt. T. Yokoyama, SORYU F. G.

© K. Hashimoto

英空軍

コラーン基地の航空博物館



Royal Air Force Colerne Aircrft Museum

↑↓ Sea Fury FB.11 (VR930) (Inter-Air Press)





大戦中にトマホーク，タイフーン，モスキート，スピット，ハリケーンなどの戦闘機部隊が駐留し，英本土南西方面防空の拠点であった英空軍コラーン基地。終戦時に同基地の整備部隊がたまたま保管することになった2機のドイツ機，He162とMe163に端を発して，その後退役した空海軍機が1機，2機と集められ，いまでは30数機の展示機を持つこじんまりとした航空博物館となっている。前ページ2枚はかって第801と802スコードロンの装備機であったシーフュリイFB.11（VR930）。写真上と下はスピットファイアMk.24（PK683）。

↑↓ Spitfire Mk.24 (PK683) (Inter-Air Press)



コラーン英空軍基地の航空博物館

Royal Air Force Colerne Aircraft Museum



Spitfire Mk.5B (BL614) (Photo Inter Air Press)

英空軍のコラーン基地の航空博物館の展示機。〔上〕スピットファイアMk.5B（BL614）。写真の機体は1942年から43年にかけて，第611，242，222，64，118の各スコードロンで使われたもので，映画“バトル・オブ・ブリテン”にも“出演”している。1972年からこの博物館に保管されている。〔下〕グロスター・ミーティアMk.4。写真の機体は第66スコードロンで“退役”と同時にコラーン基地に運ばれて保管されている。2機のドイツ機とともにこの博物館ではいちばん古い展示機の1機である。



Gloster Meteor Mk.4 (VT229) (Photo: Inter-Air Press)



〔上・下〕デハビランド　モスキトー Mk. 34（TJ138）。モスキートの Mk. 35は Mk. 16を改造してマーリン 113・114エンジンを積んだ型。写真の機体も1945年ごろブラッセルに駐留していた第98スコードロンが使っていたもので，のちに Mk. 35に改造され，標的曳行機として使 われている。1970年にこのコラーン基地に運ばれて整備され，機体塗装ももとの98スコードロン当時に再現された。この機体は，ゆくゆくは英空軍博物館に移される。なお98スコードロンは1942年10月，ミッチェルB. 2を装備した最初の部隊で，そのときから "VO" をコード・レターとした。

↑↓ Mosquito Mk.34 (TJ138) (Inter-Air Press)





↑ Gloster Meteor Mk.4 (VT229) (Inter-Air Press)

〔グロスター〕ミーティア Mk. 4 (VT229)。ミーティアは，連合軍側で使ったただひとつのジェット機。末期の1944にドイツ軍の飛翔爆弾の迎撃でデビューした。戦後にミーティア Mk. 4 の1機は，時速616マイル (991km/hr) の世界速度記録をつくっている，写真の機体は第66スコードロンに装備されていた1機である。〔下〕ハンドレページ・ヘステング (TG536)。長距離輸送機として1948年から英空軍の輸送部隊に配備されたヘステングはベルリン空輸作線で大活躍したが，現在のこっているのは，この博物館にある1機のみである。

↓ Handley Page Hasting (TG536) (Inter-Air Press)





Canberra [illegible]

〔上〕キャンベラB（I）8。写真の機体は西ドイツ駐留の第3と第16スコードロンに装備されて，“退役”までに飛行時間は 4,660時間余という超ベテラン機。1972年6月に[illegible]基地に飛来して，そのまま博物館入りとなった。〔下〕コンソリデーテッド・カタリナ（L866）。写真の機体はデンマーク空軍の使用機で，尾翼にそのマークをつけている。コラーン空軍基地の博物館には，スピットファイアがMk.5とMk.24の2機，ミーティアもMk.8とNF14（WS838）の2機があるが，飛行艇はこの1機のみ。



Consolidated Catalina (L866) (Photo: Inter-Air Press)



↑↗ Consolidated Catalina (L866) (Inter-Air Press)

(上・右上) コンソリデーテッド・カタリナ (L866)。1936年から米海軍に装備された水陸両用のカタリナは，1941年からは英空軍用にも約650 機が生産されている。カタリナは乗員8～9人，プラット・アンド・ホイットニー　R1830 SIC 3－9 ツインワスプ・エンジンを2基装備して，巡航速度は179 mph (288km / h)，航続力4,000マイル (6,436km)。7.7mm機銃3挺，2,000 ℓb 爆弾1発を装備して，主に洋上偵察任務に使われた。写真の機体はデンマーク空軍で使われた機体で，1974年5月30日からここに保管されている。





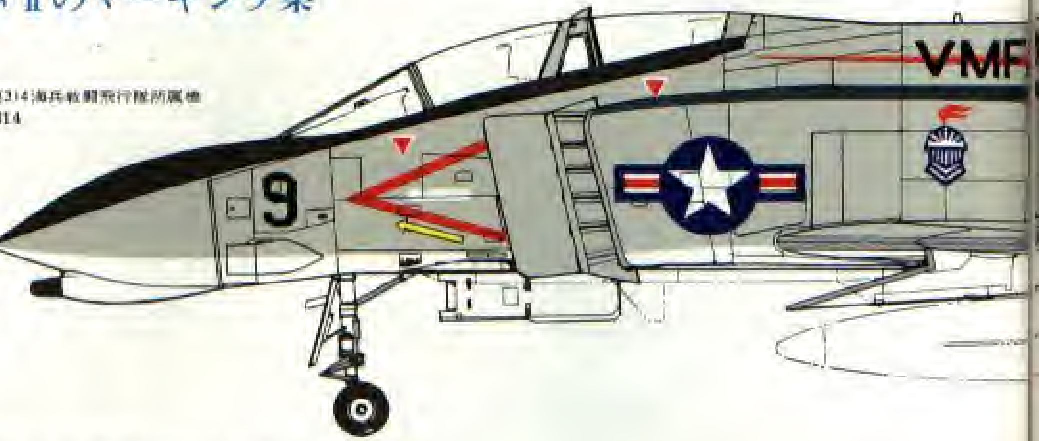
〔左下・下〕グロスター・ジャベリンMk. 4（XH892）。ジャベリンは複座の全天候戦闘機として1953年から生産に入り，1968年まで就役している。写真の機体はグロスター社の子会社で空中給油の訓練用に使われたもので，燃料タンクを大きくするなどの改造をしている。

↓↓ Gloster Javelin Mk.4 (XH892) (Inter-Air Press)

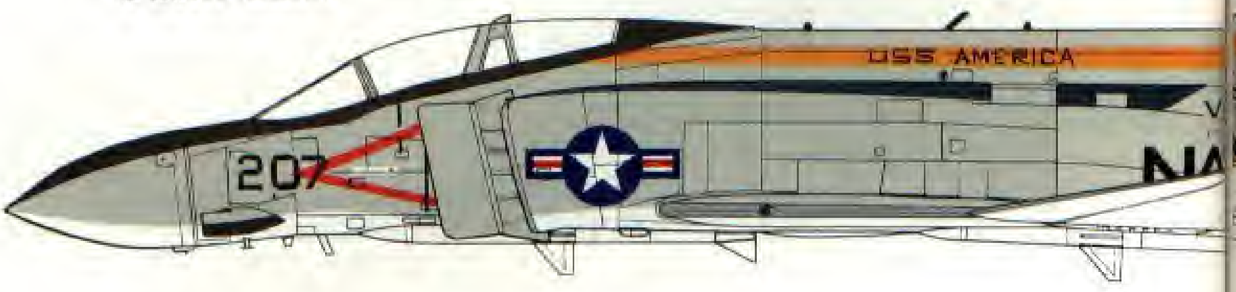


ファントムⅡのマーキング集

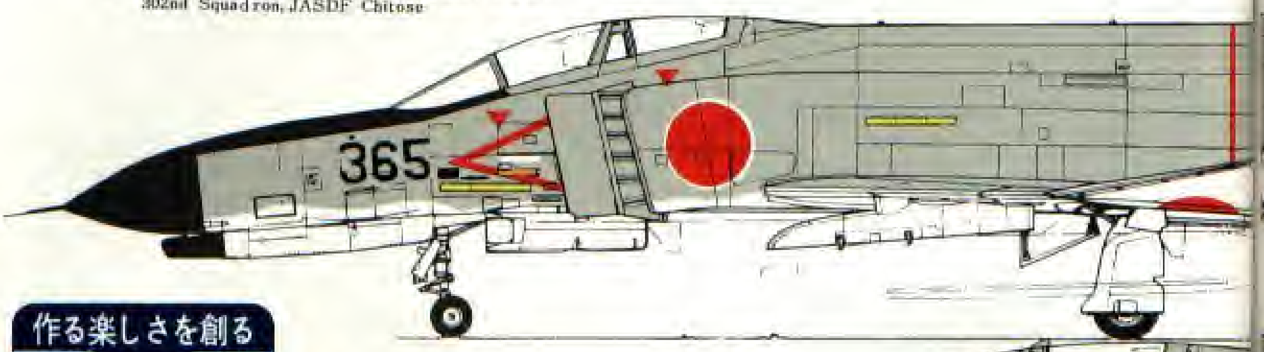
① F-4N，第314海兵戦闘飛行隊所属機
VMFA-314



② F-4J，空母アメリカの第124戦闘飛行隊所属機，
VF-124, USS AMERICA



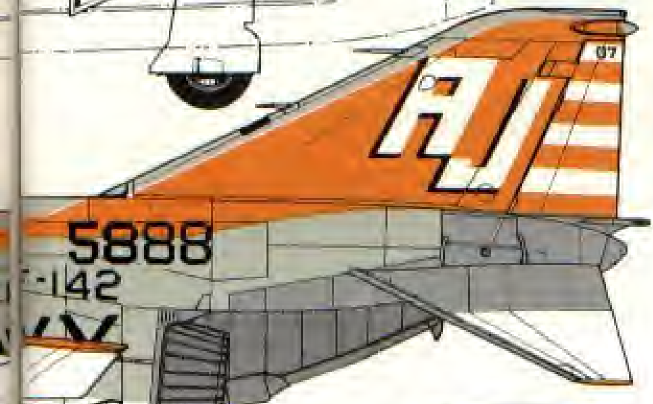
③ F-4EJ，航空自衛隊第302飛行隊（千歳基地）所属機
302nd Squadron, JASDF Chitose



④ F-4N，空母コーラル・シーの第111戦闘飛行隊所属機
VF-111, USS CORAL SEA







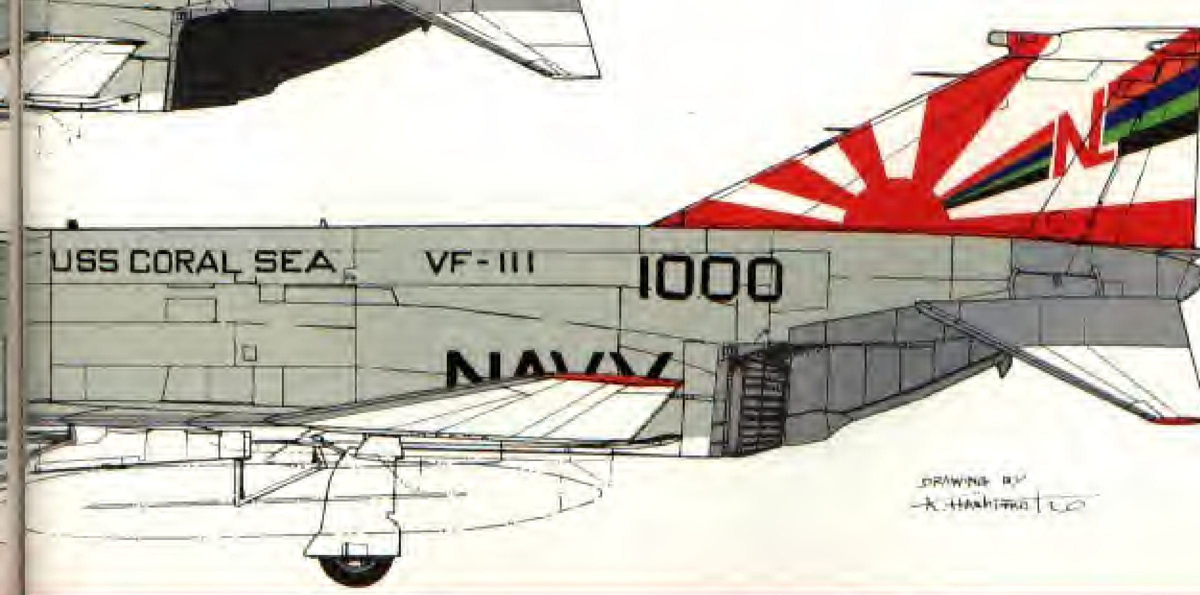


McDONNELL DOUGLAS F-4 PHANTOM II

1/32 SCALE KIT

アメリカ海軍，海兵隊および航空自衛隊のファントムIIで，ガルグレイとインシグニアホワイトの塗装機。

インシグニアホワイトはレベルカラー①ホワイトを90%，⑪ガルグレイを4%，それに㉝フラットベース8%を混合すると，それらしい色ができあがる。同②の機体の垂直尾翼と胴体ラインはクロームイエロー④+(58)の混色でOK。



DRAWING BY
K. Hashimoto



ハイモデリングのための
レベル資料集

マクダネルダグラス F-4ファントムII (3)

☆キットの紹介☆

レベルの1/32スケール，ビッグファントムのキットは各型のモデルが完備しているのが特徴で，新発売モデルでは米空軍のF-4Eと西ドイツ空軍のF-4Fがあり，主翼にスラットが付いた最新型であることで最初のものといえる珍しいキット。また武器系アクセサリーが，ごそっと附属しているという豪華版である。カラー・ページで紹介した航空自衛隊第302飛行隊機等を作れる日の丸つきF-4EJのキットも近日発売が予定されている。

海軍型ファントムIIのF-4Jのキットも発売中で，実に多種多様な面白いマーキングが楽しめる海軍型として人気のあるキットであり，1/72スケールでは最近公開された映画でもおなじみのブルー・エンジェルス4機セットのキットがある。またスタンダードF-4Cのキットのほかに，プレイボーイのマークをつけた第4実験開発飛行隊のブラック・ファントムIIのキットもあり，ぞんぶんに腕前を発揮して楽しむことができる。

（イラストと解説・橋本喜久男）

〔写真〕①第74戦闘飛行隊〈VF-74〉所属のF-4J
②第101戦闘飛行隊〈VF-101〉所属のF-4J
③第84戦闘飛行隊〈VF-84〉所属のF-4J
④第4実験開発飛行隊〈VX-4〉所属のF-4J

ファントムIIグレー塗装タイプに
必要なレベルカラー

①ホワイト	⑧シルバー
⑪ガルグレー	㉝ブラック
㊴フラットベース	㉘黒鉄色
㊶レッドブラウン	等


122
AD
VF-101
1785
122


A
E
5868
VF-84
NAVY
289


3783



前ページの図④にある第111戦闘飛行隊（VF-111）所属のF-4N。（Photo M.F.Luiz Jr.）



日本海軍初の低翼単葉艦戦

九六式艦上戦闘機

Aircraft Carrier SORYU based Type 96-4 Carrier Fighter (A5M4), Claude, in action over East China Sea, 1938. (Photo: Tamotsu Yokoyama)

NAVY TYPE 96 CARRIER FIGHTER (MITSUBISHI A5M2-4)

空母「蒼龍」戦闘機隊所属の96式4号艦戦。昭和13年、東支那海にて。



Type 96-4 Carrier Fighter (A5M4) during Mid-China operations, 1938.
"W" on the tail is the unit marking of fighter unit she was assigned.
(photo: Tamotsu Yokoyama)

前ページと同じく「蒼龍」戦闘機隊の96式4号艦戦。昭和13年、中支作戦のころ。「蒼龍」戦闘機隊は、12年末から15年にかけて、「W」の部隊標識を使用していた。垂直尾翼の標識は赤地に白文字、胴体のたすき状の赤と白の線は小隊長機を示すものと思われる。

Type 96-4 Carrier Fighter ready to leave the mothership. Aircraft

(photo : Tamotsu Yokoyama)

空母「蒼龍」から発艦する96式4号艦戦。搭乗しているのは戦闘機分隊長横山保大尉。昭和14年11月、東支那海で作戦中のシーンである。胴体の赤いたすきがけの縞は、分隊長機を示す。操縦席後方の無線柱に日の丸の旗を結びつけているのに注意。

Carrier SORYU. Aboard the plane is Lt. Tamotsu Yokoyama, Buntaicho (unit leader) of the fighter unit. East China Sea, November 1939.

(Photo : Tamotsu Yokoyama)





Type 96-2 Carrier Fighter (A5M2) of No. 13 KOKUTAI assigned to Nangking Airfield. Photo taken in 1938.

〔上〕中国戦線の96式2号艦戦。第12航空隊の所属機で、昭和13年春、南京の大校場飛行場にて。第12航空隊は昭和12年7月7日、日華事変ぼっ発とともに編成され、大陸へ派遣された部隊であるが、緒戦は95式艦戦で闘い、12年末から96式艦戦に機種改変した。

〔右上〕カウリングをはずしてエンジン始動テスト中の96式2号艦戦。〔下〕太平洋戦に入っても、一部の部隊は96式艦戦を装備していた。写真はラバウルに送られた96式4号艦戦。



Type 96-2 Carrier Fighter (A5M2) cowling removed, in engine-tests.



Some of Type 96 Carrier Fighters were still in service when the Pacific War broke out . Here is one of them dispatched to Rabaul.



Type 96-4 Carrier Fighter (A5M2) of No. 12 KOKUTAI.Note the drop tank carried for the first time by the Navy.

「3」の部隊標識をつけた第12航空隊の96式4号艦戦。胴体の下に落下増槽をつけているが、海軍の戦闘機でこのドロップ・タンクを装備したのは96艦戦が最初であった。

未発表海軍機写真集



艦攻／艦爆／中攻



〔前ページ〕胴体下に60kg爆弾を吊して中国大陸上空を飛ぶ97式1号艦攻。「蒼龍」艦攻隊の所属機で、日華事変2年目に入った昭和13年の撮影。
〔上〕同じく中国戦線に派遣された「蒼龍」艦攻隊の97式1号艦攻。部隊標識は戦闘機隊と同じく「W」を使っている。
〔右上・右〕日華事変がぼっ発してまもない昭和12年8月、台北に進出した鹿屋航空隊と大村基地の木更津航空隊の96式陸攻は、長駆上海周辺の航空基地を爆撃、すぐれた航続力を実証した。いわゆる渡洋爆撃であるが、写真は木更津航空隊の96陸攻11型で、昭和13年春ごろの撮影。

↑ SORYU-assigned Type 97 Carrier Attack-bomber (B5N1) with a 60kg bomb under the fuselage.

↗→ Type 96 Attack-bombers (G3M1) of KANOYA and KISARAZU KOKUTAI advanced to Taipei and Omura Airfield respectively, as the Sino-Japanese Conflict broke out (July 7, 1937), and began long-range attack bombing against military facilities in a and around Shanghai. Photo'd is the KISARAZU's in its "cross-the-ocean" mission in the spring of 1938.

(Photo : Y. Aoki)






X-336



昭和16年12月8日、ハワイのホイラー飛行場を爆撃する空母「瑞鶴」の99艦爆。格納庫前に並べられたP-40戦闘機が黒い煙をあげて燃えている。画面中央から退避して画面右の方に反転して避退、帰投する99艦爆。中央に4機が写っており、右手に爆撃反転中の1機が見える。



Type 99 Carrier Bombers (D3A1, Val) of Carrier ZUIKAKU raid Wheeler Airfield, Hawaii, Dec. 8, 1941. (Photo : H. Yaegashi)

North American P-82

ツインムスタング



2機のムスタングをつなぎ合わせたP-82ツインムスタングは，太平洋戦線用に開発された長距離援護戦闘機。計画されたのは大戦末期の1943～44年ごろで，原型のXP-82が初飛行した1945年4月，生産型のP-82Bに500機の発注が出されたが，終戦のために20機に減らされた。しかしP-61ブラックウイドーを継ぐ夜間戦闘機として生産がつづけられ，計273機がつくられている。本機は米陸軍空軍が発注した最後のピストン・エンジン戦闘機であった。

Side view of XP-82. (Courtesy of NAA)



(本文96ページ記事参照)



Front view of XP-82 showing variety of external stores. (Courtesy of NAA)

このページ3枚は原型のXP-82。原型はパッカードV-1650-23 25エンジン(1,860hp)双発にして左右両まわりプロペラにした1、2号機とアリソンV-1710-19エンジンを積んで双右まわりプロペラをつけた3号機(XP-82A)の3機が作られたが、写真の機体は2号機。XP-82は、垂直尾翼付根前方の背ビレを大きくしたP-51Hの胴体をそのまま組み合わせたもので、左右主翼もH型そのまま、内側の主翼もH型のものを半分生かして、新設計のの中央翼部分と水平尾翼でつないだものである。上の写真では、爆弾、ロケット弾、ガン・ポッドを装備している。

Rear 3/4 view of XP-82. (Courtesy of NAA)





First XP-82 prototype in flight. (Photo by C.M. Daniels)

終戦でP-82Bの生産は20機に減らされたが、陸軍空軍では1946年になって、新たに護衛戦闘機型100機、夜間戦闘機型150機、計250機のツインムスタングを発注した。護衛戦闘機型はP-82Eと呼ばれ、夜間戦闘機型のうちAPS-4レーダを積んだものがP-82F、SCR720レーダ搭載機はP-82Gで、搭載エンジンはすべてアリソンV-1710-143／145(1,600hp)であった。

PQ-256 identifies this is an E model escort fighter. (Courtesy of NAA)





P-82E flies over Pacific Ocean. (Courtesy of NAA)

写真左上はＸＰ-82原型１号機。左下と上は護衛戦闘機型のＰ-82Ｅ。下は中央翼の下に巨大なＡＰＳ-4レーダ装備のナセルを付けた夜戦型のＦ-82Ｆ。Ｆ-82Ｅは戦略空軍の長距離援護戦闘機として配備されたが、夜戦型のＦとＧ型は、板付の第５空軍傘下部隊に装備されて、朝鮮戦争で空軍機として最初の撃墜を記録している。1948年以後Ｐ-82はすべてＦ-82と呼称が変った。

F model night fighter equipped with nacelle to house APS-4 radar equipment. (Courtesy of Leo J. Kohn)





P-82 in flight with four 310 gallon auxiliary tanks. (USAF photo)

写真上と下は、本文記事（96ページ）にあるように、ホノルルからニューヨークまで無着陸飛行記録をつくったP-82B"ベティ・ジョー"号。写真上は記録飛行にそなえてハワイで整備中のもの。左翼下に310ガロン増槽1個をつけるしいるが、飛行ではこれを4個装備した（写真下）。ツインムスタングの操縦席は、左側胴体のが主操縦士席で、飛行・エンジン関係の計器をそなえ、右側胴体のは、夜戦型ではレーダ手席に改造された。



P-82B "Betty Jo" in preparation for Hawaii–New York flight. (Courtesy of NAA)



↑ 1934年ごろからシアトルと南アラスカ間に定期便を飛ばせたパシフィク・ノーザン・エアラインズ（PNA）のDC-3（N39465）。DC-3はローカル線の花形だった。

エアラインの翼

就航40周年を迎えたダグラスDC-3



↓ DC-3の生産は、カリフォルニア州サンタモニカのダグラス社工場で行なわれた。



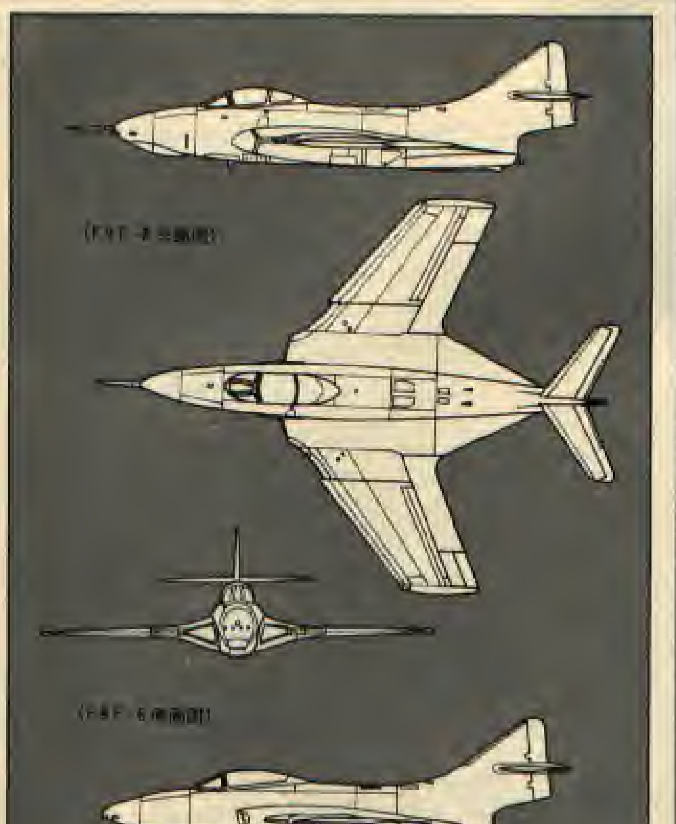
1936年6月25日、アメリカン・エアラインズの新鋭機として初めて民間路線に就航して以来、今年はちょど40周年。13,500機が生産され、世界各地で使われたダグラスDC-3は、民間航空史上の輝ける星である。

アメリカン・エアラインズに納入された1号機が初飛行したのは1935年12月17日、以後本機を持って創業した民間航空会社も多く、1942年のアメリカ国内線では、使用機総数 322機のうち実に 260機はこのDC-3であった。58年にはさらに増えて、229機のうち 201機と国内ローカル線は本機の独占であった。写真上は全盛のころの客室。

ジェット戦闘機の先輩たち



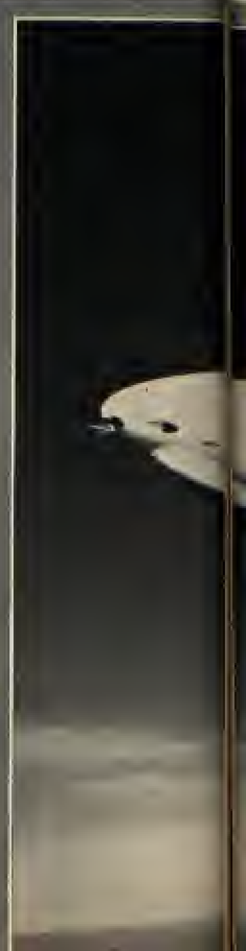
アメリカ海軍⑤　グラマン　F9F-6/8　クーガー



F9F-6、8クーガーは、前号で紹介したF9F-2 5パンサーを後退翼にしたもの。米海軍では最初の後退翼のジェット戦闘機である。呼称は同じF9Fだが、パンサーとクーガーではまるで違った"顔"の飛行機である。

時速115マイル（297km）という着艦の制限速度のため、海軍では高速、高翼面荷重の後退翼の採用にふみ切れなかったが、パンサーの後退翼案が出されたのは同機の就役1年目のころ。35度の後退角がついた新設計の翼を付けたXF9F-6が初飛行したのは1951年9月20日。胴体と尾翼はパンサーのものをそのまま使って、エンジンはP&W J48-P-8に換装した。

1952年から生産に入り、F9F-6が706機、アリソンJ33エンジンにしたF9F-7が168機生産されている。





機首にK-17カメラを積んだF9F-6P。チェリーポイントのVMJ-2所属機。

GRUMMAN COUGAR



クーガー単座戦闘機型の最後の型F9F-8.



飛行特性を改善するためにF9F-6を改造したF9F-8は、燃料タンク増設のために、胴体中央部を43cm延長、操縦席風防も後方視界を改良して外形が変った。



Ｆ９Ｆ-7につづくクーガー単座型の最後のバリエーションＦ９Ｆ-8は、１号機が1953年12月18日に初飛行、カメラを積んだＦ９Ｆ-8P、空対空、空対地ミサイルを装備した戦闘攻撃型のＦ９Ｆ-8Bを含めて、計712機が生産されている。





写真左上は偵察型のＦ９Ｆ-8Ｐ、左下は空母ハンコックに着艦した第121戦闘飛行隊（ＶＦ121）のＦ９Ｆ-8、上は複座練習型のＦ９Ｆ-8Ｔ、下はサイドワインダーＡＡＭを装備したＦ９Ｆ-8Ｂである。複座のＦ９Ｆ-8Ｔはクーガーの最終生産型。タンデム複座で胴体は単座型より86cmほど延長されている。複座型は399機作られ、クーガーの総生産機数は1,985機であった。〔Ｆ９Ｆ-6データ〕Ｐ＆Ｗ　J48-Ｐ-８ターボジェット(3,288kg）×１、全幅11.09ｍ、全長12.66ｍ、全高4.57ｍ、最大重量9,071kg、最大速度1,107km／h、実用上昇限度15,240ｍ、12,000ｍまで７分、航続距離1,600km、武装20mm機関砲×４(機首)、1,000ℓb爆弾×２（主翼下）。

